

1 カ月の子どもを育てる母親の育児困難感

Mothers' Feelings of Difficulty with Child Rearing of One-month-old Children

小林 康江¹⁾, 遠藤 俊子¹⁾, 比江島欣慎²⁾, 雨宮 幸枝³⁾, 長田 保昭⁴⁾,
田辺 勝男⁵⁾, 中村 雄二⁶⁾

KOBAYASHI Yasue, ENDO Toshiko, HIEJIMA Yoshimitsu, AMEMIYA Sachie, OSADA Yasuaki,
TANABE Katsuo, NAKAMURA Yuji

要 旨

(目的) 産後1カ月児を育てる母親が感じている育児に対する困難感の実態とそれに影響を与えている要因を明らかにすること。(方法) 便宜的抽出法を用い、調査研究協力施設で出産をし、産褥1カ月健診を受診する母親360名(有効回収率72.0%)。1カ月健診受診時に、「子ども総合研究式 育児支援質問紙0～11カ月児用」を配布し、記入後回収した。(結果) 母親の2～3割は、子育てに対して、自信の無さ、精神的な不調、子どもの扱いにくさを感じている。さらに、夫との関係や家族との関係に対して否定的に捉えていた。母親に不安・抑うつ傾向があると育児困難感を上昇させること、母親の不安・抑うつ傾向には、夫の心身不調、夫・父親・家族機能の問題、Difficult Babyが関係していた。母親の不安・抑うつ傾向には夫の心身不調が関係しているが、夫の心身不調は育児困難感に直接的に影響を与えないことが明らかとなった。

Purpose: To examine mothers' feelings towards the childrearing of children aged newborn to one month old, and the factors contributing toward those feelings. Method: The postnatal condition of 360 mothers gathered using convenience sampling was examined. A childrearing support questionnaire (JCFRI Child Rearing Support Questionnaire), which measures mothers' feelings of hardship in childrearing, was administered one month after delivery. Results: 20-30 percent of mothers indicated a loss of maternal confidence, poor mental condition, and felt their child in particular was difficult. When mothers felt anxiety and depression, they felt childrearing was more difficult. Mothers' anxiety and depression were concerned with their husbands' physical and mental health and a difficult baby.

キーワード 母親, 育児困難感, 不安, 子ども総合研究式 育児支援質問紙
Key Words Mother, Feelings of Difficulty with Child Rearing, Anxiety,
JCFRI Child Rearing Support Questionnaire

緒言

21世紀の日本は少子化が改善されず、高齢化が進み、社会問題となっている。少子化の背景には、女性の職場進出、結婚・出産等に関する価値観の変化に伴う少産化があり、地域社会における関係の希薄化を背景とする、母親の育児ストレスや育児不安の存在も関係していると言われている¹⁾。

近年の研究において育児不安が様々に定義されるなかで^{2・4)}川井らは、「育児不安の本態は、『育児困難感』という心的状態である」ことを明らかにし⁵⁾、子どもの年齢区分から育児困難感の評定尺度を開発した。開発された尺度の生後0～11カ月児用に関しては、子どもの成長・発達の著しい時期を対象にしており、月齢の幅の検討が

受理日：2006年7月20日

1) 山梨大学大学院医学工学総合研究部(母性看護学・助産学):
Interdisciplinary Graduate School of Medicine and
Engineering(Maternity Nursing & Midwifery) University
of Yamanashi

2) 東京医療保健大学: Tokyo Health Care University

3) 韮崎助産院: Nirasaki Midwifery Home

4) 長田産婦人科クリニック: Osada Ladies Clinic

5) 田辺産婦人科: Tanabe Clinic

6) 中村産婦人科医院: Nakamura Obstetrics and Gynecology
Clinic

必要と報告されている⁶⁾。

一方、女性には妊娠・出産により急激な身体的な変化が起こる。加えて母親という新しい役割が加わることからの精神的ストレスが生じる場合もある。出産後の母親の不安は、退院直後から退院後1カ月までが最も増大し、それ以降一度減少し、子どもが1歳前後になると再び増大すると言われている⁷⁾。また母親の不安は、子どもの成長・発達とともに変化するとも言われている⁸⁾。さらに、産後1ヶ月の育児負担度が高いほど、産後4ヶ月で「子供を育てることの負担」、「自分の能力の出し切れなさ」を感じるとの報告もあり⁹⁾、産後1カ月の母親の育児に対する受け止め方がその後に影響すると言われている。不安の解決法に関しては、母親の多くが医療従事者よりも母や義母に相談している^{10)・11)}。初産の母親を対象に家庭訪問の効果を検証した結果では、家庭訪問群の母親は、非訪問群よりも不安の程度が低く、育児に対する楽しさを感じ、看護職による家庭訪問の有効性が検証されている¹²⁾。

以上のことから、本研究の目的は、1カ月児を育てる母親の育児困難感の実態を0～11カ月の報告と比較し明らかにすること、さらに育児困難感に影響を与えている要因を明らかにし産後のケアのあり方を検討することである。

方法

1. 調査対象

便宜的抽出法を用い、施設長に研究協力の承諾が得られたY県内の産科を有する病院、医院、助産院の合計5施設を調査研究協力施設とした。調査対象者は、これらの施設で出産をし、産褥1カ月健診を受診する、本調査への協力に同意した褥婦500名とした。

2. 調査手順

2004年7月～12月に、調査協力施設において質問紙調査を実施した。質問紙は、産褥1カ月健診を受診する褥婦に対して、看護者または受付事務員が健診の待ち時間、もしくは健診後に手渡しで配布した。配布の際、研究内容等の説明を行い、調査協力依頼書を用いて研究協力の依頼およびその同意の取得を行った。質問紙の回収は留め置き法にて行った。

3. 調査内容

1) 対象者の背景

年齢、産科歴、職業、今回の妊娠中の健康状態、分娩方法、出産後の治療の有無、母児同室・異室、子どもの出生時週数、出生時体重、性別、子どもの治療の有無、夫の年齢、職業、退院後の生活の場所、退院後に受けた支

援の状況、新生児訪問指導を受けたか否か、新生児1カ月健診を受けたか否かを調査した。

2) 子ども総合研究式 育児支援質問紙

これは川井らが育児相談の際、母親がどの程度育児に困難感を感じているかを評定するために作成した尺度である¹³⁾。本調査では、子ども総合研究式 育児支援質問紙0～11カ月児版を用いた。本質問紙は、6領域からなる75項目の質問紙である。領域1は育児の印象について12項目を問い、「育児困難感」を反映している。領域2は、「夫・父親・家族機能の問題」について21項目、領域3は、12項目から「母親の不安・抑うつ傾向」を測定する。領域4は母親から見た「夫の心身の不調」について9項目、領域5は、「Difficult Baby」について8項目から成っている。領域6は、子どもの心身の状態についてであるが、「子どもの中に入るのをいやがる」、「指しゃぶりがあがる」、「ひとみしりが強い」など、調査対象者の子どもの月齢とは一致しないため尺度開発者に了解を得て除外し、領域1～5までの62項目を用いた。回答方法は、「いいえ」「ややいいえ」「ややはい」「はい」の4段階で、1点から4点が割り振られている。本尺度の評定は、各領域の合計点を算出し、合計点から標準得点を求める。0～11カ月児用質問紙の場合、領域1の合計点の最高は27点になる。川井らは、合計点が25点以上の場合、ランク5に分類され、この母親に対しては、介入が必要と報告している。ランク5およびランク1は上位、下位から標本の5%程度をスクリーニングする結果から、導き出されている。

4. 分析方法

各質問項目の単純集計を実施したのち、0～11カ月児用の本質問紙が、1～2カ月児を持つ母親を対象とした場合の信頼性・妥当性を確認するために、因子分析を行い、信頼性係数を求めた。育児困難感に及ぼす影響を明らかにするために、育児支援質問紙の合計点、領域毎の合計点を算出し、それぞれの関係を調べた。さらに領域1合計点「育児困難感」を従属変数、領域2から5の合計点を独立変数とした重回帰分析を行った。分析は、SPSS Ver.12を用い、有意水準を5%とした。

5. 倫理的配慮

対象者への倫理的配慮として、調査票は無記名とした。調査への協力は自由参加であること、調査用紙への回収が得られた場合は、調査研究の同意を得られたとすること、回答を拒否する場合は、アンケート不参加用の回収箱もしくは破棄処分していただくことを文書に示し協力依頼を行った。さらに、研究の目的、方法、研究対象者の人権の保護、秘密保持についても同様に示した。

本研究は山梨大学大学院医学工学総合研究部倫理審査委員会による審議を得て行った。

結果

1. 対象の背景

1) 全体像

配布数500部、回収数479部、回収率95.8%であった。育児支援質問紙に無回答のあるケースを削除した360ケース(72.0%)を有効回答として、分析対象とした。

対象者の平均年齢は、29.9 ± 4.5歳、今回が初めての子どもの母親(以下、初産婦)168名(46.7%)、2人以上の子ども(以下、経産婦)を持つ母親は、192名(53.3%)であった。子どもの数の内訳は、2人146名(40.6%)、3人41名(11.4%)、4人5名(1.4%)であった。子どもの生後日数は、平均32.0 ± 4.98日であった。

2) 育児支援質問紙の回答状況

育児支援質問紙の領域毎、質問項目に対する回答者数の割合を図1～5に示す。領域1の「育児困難感」では、「育児についていろいろ心配なことがある」に対して、「ややはい」に159名、「はい」に72名と6割の母親が心配があると回答していた。その他「育児に自信が持てない」に「ややはい」85名「はい」5名、「母親として不適格と感じる」に「ややはい」67名「はい」7名、「子育てに困難を感じる」に「ややはい」102名「はい」12名と回答した。領域3の「母親の不安・抑うつ傾向」も同様に、「気が滅入る」に「ややはい」92名「はい」18名、「不安や恐怖におそわれる」に「ややはい」61名「はい」9名、「悲観的になりやすい」、「精神的に不調である」に「ややはい」55名「はい」16名と回答した。

また、領域2の「夫・父親・家族機能」では、「夫は私

や子どものためとてもよくしてくれる」、「夫は精神的に私を支えてくれる」、「夫と気持ちが通じ合っている」、「家族は子育ての大変さをわかってくれない(逆転項目)」に対して、8～9割の母親が「はい」、「ややはい」と回答し、領域4の「夫の心身不調」では、7～8割の母親がこれらの項目に「いいえ」と回答していた。

最後に、領域5の「Difficult Baby」では、「おとなしく手がかからない」に対しては「ややはい」139名「はい」44名と半数近くの母親が「はい」、「ややはい」と回答していた。一方、「よく泣いてなだめにくい」に「ややはい」49名「はい」12名、「わけもわからず泣く」に「ややはい」56名「はい」9名、「夜泣きがひどい」に「ややはい」43名「はい」8名であった。

以上のことから、2～3割の母親は、現在の育児に対して否定的に捉えている傾向が伺える。

3) 領域別の標準得点

尺度の使用方法に準じ、領域毎に合計得点を求めた後、標準得点に換算し、さらに換算した標準得点をランク1～5の5つの段階に変換した。領域1の「育児困難感」の標準得点を基準とし、各領域の標準得点の平均点を図6に示した。今回、育児困難感ランク5に分類された母親の割合は、40.3%であった。この結果は、川井らの報告で示されている0～11カ月児の母親の育児困難感ランク5の割合6.8%、および、1歳児1.6%、2歳児0.8%、3～6歳児1.8%と比較しても高値であった。逆に育児困難感ランク1,2の母親が、本研究の結果ではまったく見られなかった。

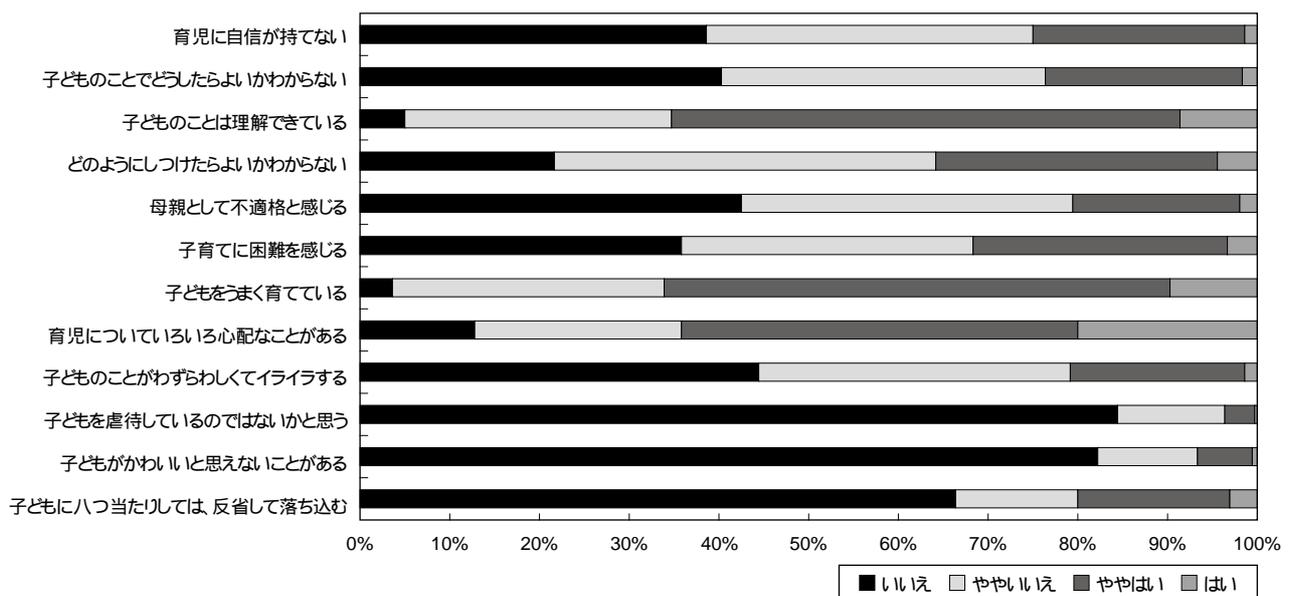


図1 育児支援質問紙 領域1「育児困難感」項目別回答者数

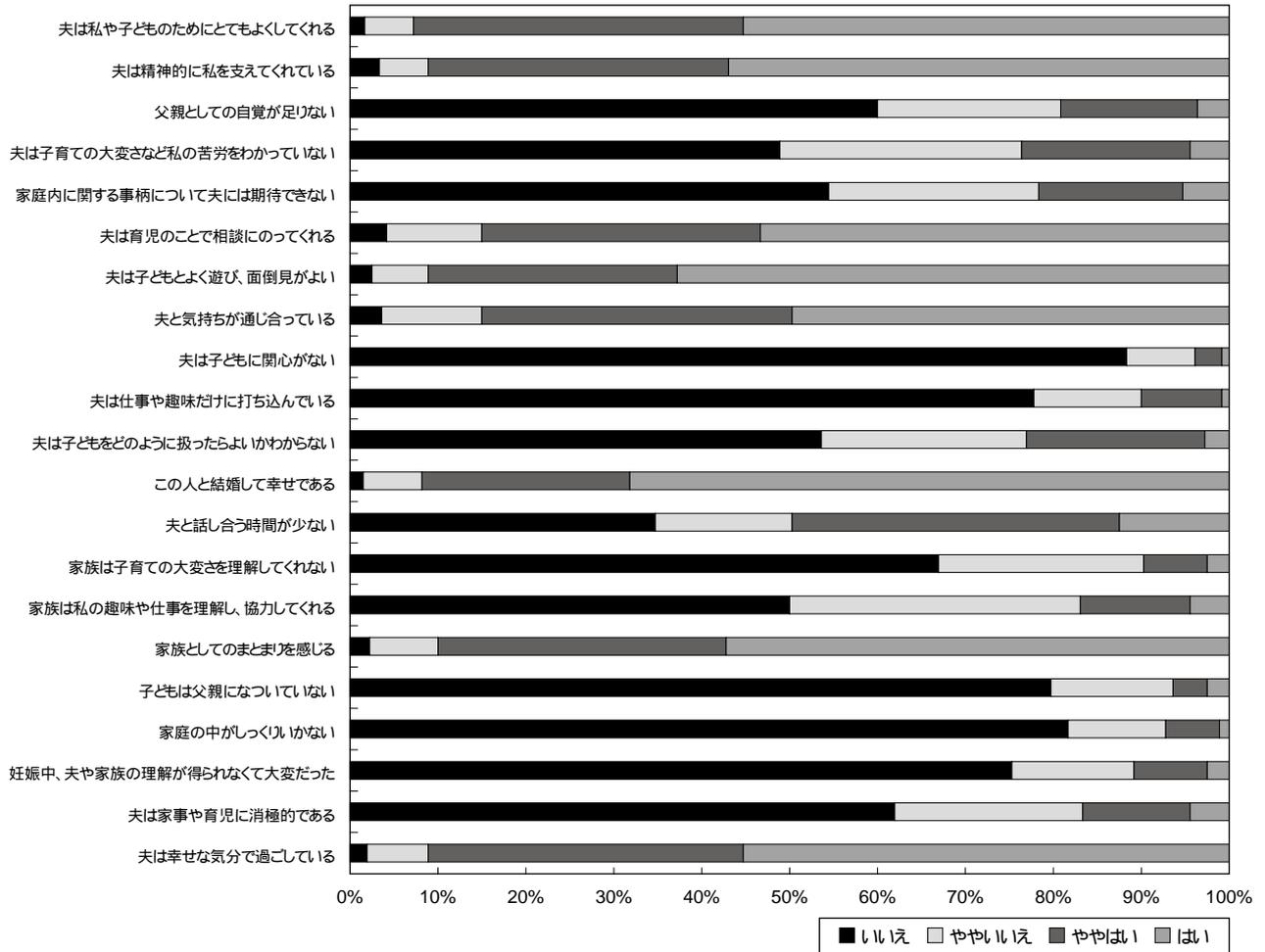


図2 育児支援質問紙 領域2「夫・父親・家族機能」項目別回答者数

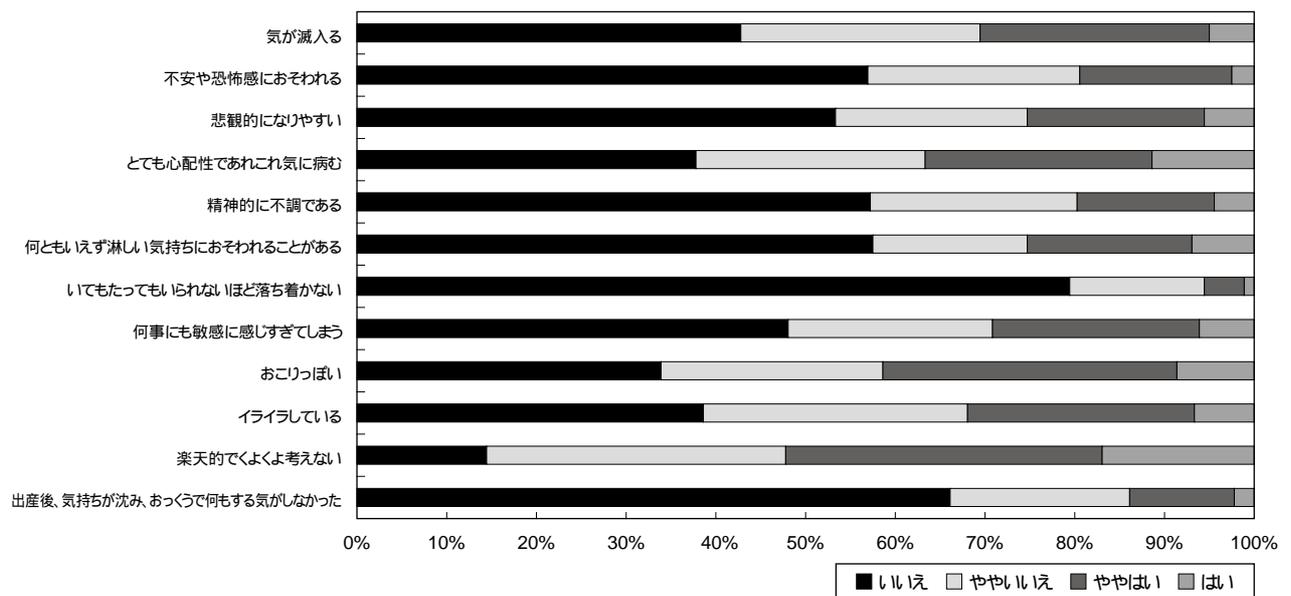


図3 育児支援質問紙 領域3「母親の不安・抑うつ傾向」項目別回答者数

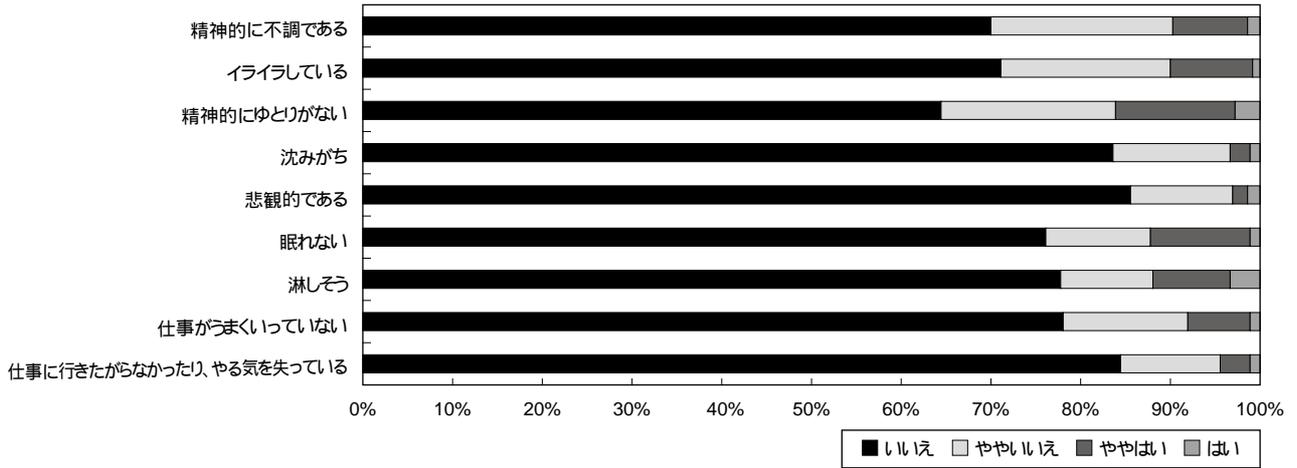


図4 育児支援質問紙 領域4「夫の心身不調」項目別回答者数

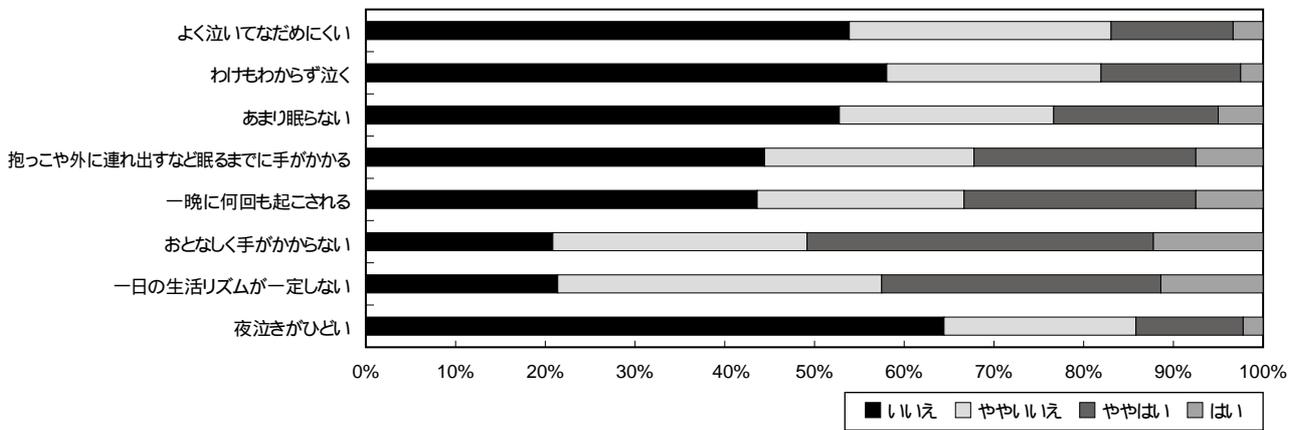


図5 育児支援質問紙 領域5「Difficult Baby」項目別回答者数

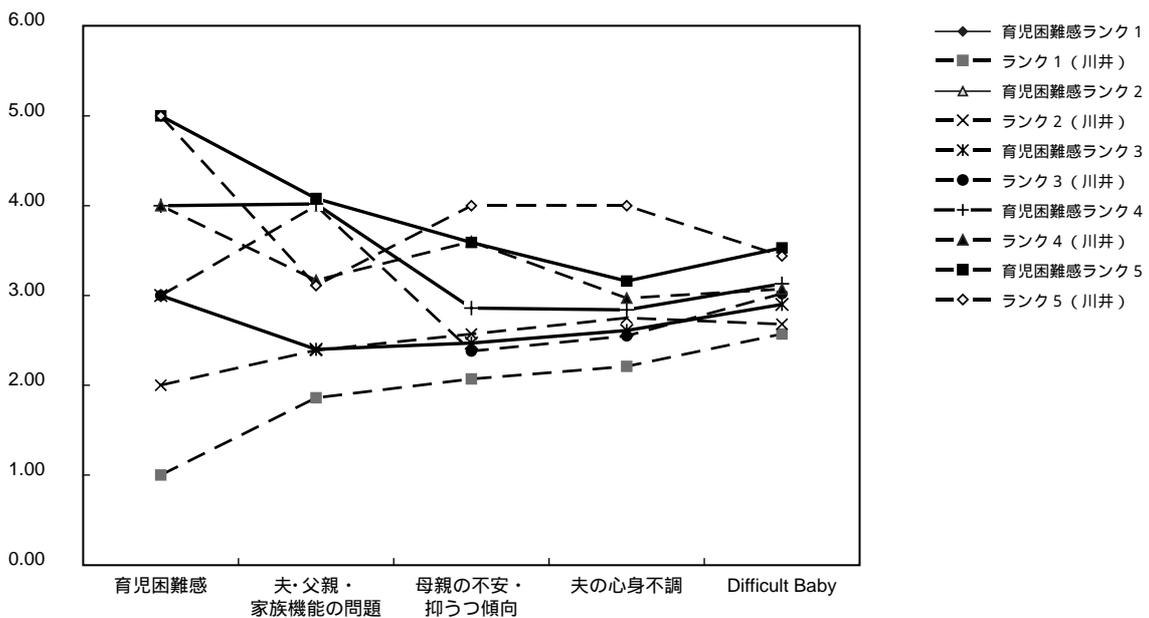


図6 育児困難感のランクを基準とした領域別ランク毎平均点の比較

2. 「育児支援質問紙」の構成概念の確認

質問紙の構成を確認するために因子数を5に指定し、主因子法・Promax回転による因子分析を実施した。その結果、領域3の2項目「おこりっぽい」、「イライラしている」が、本研究では領域1の「育児困難感」に含まれた。5因子での全分散を説明する割合は48.83%であった。さらに、尺度全体の内的整合性を示す係数は0.946、全ての下位尺度において信頼性係数は0.85以上であった。Promax回転後の因子パターンと因子間相関、さらに各因子の係数を表1に示す。

3. 「育児支援質問紙」の領域合計点の相関関係と「育児困難感」の因果関係の検討

育児支援質問紙の5つの領域毎の合計点を求め、各合計点との相関を求めた。さらに、育児支援質問紙の領域1の「育児困難感」に残り4つの領域が与える影響を検討するために、重回帰分析を行った。また、重回帰分析に基づくパス図を図7に示す。本パス図には、上記で求めた領域間の相関も併せて示した。

この分析の結果、母親の不安・抑うつ傾向があると育児困難感を上昇させること、母親の不安・抑うつ傾向には、夫の心身不調、夫・父親・家族機能の問題、Difficult Babyが関係していることが明かとなった。さらに、母親の不安・抑うつ傾向には夫の心身不調が関係しているが、夫の心身不調は育児困難感に直接的に影響を与えないことが明らかとなった。

考察

1. 産後1～2カ月の母親の育児困難感の特徴

本研究の結果から、1～2カ月児の母親の特徴として、以下のことが明らかとなった。2～3割の母親は、子育てに対して自信の無さを感じ、また、精神的な不調、子どもの扱いにくさを感じていた。そして、子どもの月齢の幅が0～11カ月児の母親と比べて育児困難感ランク5の割合が多い。

また、育児困難感に影響のある要因は、母親の不安・抑うつが最も関係があり、母親の不安・抑うつ傾向があると育児困難感を上昇させること、母親の不安・抑うつ傾向には、夫の心身不調、夫・父親・家族機能の問題、Difficult Babyが関係していた。しかし、Difficult Babyは、母親の育児困難感に影響が少なく、夫の心身不調は育児困難感に直接的に影響を与えていなかった。

この結果は、産褥期早期の不安は児に関する事よりも、疲労や家族関係等の心理、社会的変化についてである¹⁴⁾という報告に一致した結果と言える。親が子育てに対して感じるストレスは、子どもの特徴に関わるストレス、親自身に関わるストレス、親子相互作用に関わるストレ

スである¹⁵⁾。子どもの特徴に関わるストレスでは、「子どもが期待通りにいかない」、「子どもに問題を感じること」¹⁶⁾、特に0～6ヵ月児を対象にした研究では、育てにくい子ども、つまりDifficult Babyの存在が指摘され¹⁷⁾、母親の育児困難感はその反応をどう読み取るかにより変化する¹⁸⁾。

今回の結果から、母親の育児困難感に対してDifficulty Babyが関係していた。しかし、関係する程度は弱かった。このことは、同じ月齢の子どもを持つ母親を対象とした研究の結果と一致する¹⁹⁾。この理由として、産後1カ月は、親になる過程において、子どもの泣きの理由や反応を試行錯誤しながら解釈する時期であり²⁰⁾、まだ、『育てにくい子ども』と、自分の子どもを捉えるまでに至らない、つまり子どもとの関係性が顕在化していないことが考えられる。

母親になることは、移行である。移行の特徴である「過程」は、「2つの比較的安定した状況の間にある時期」を意味し、それは始まりと終わりの境界があること、つまりある状況から他の状況への移動を含んでいるということである²¹⁾。このことから、産後1カ月はまだ移行の始まりの時点であり、育児困難感や母親の不安・抑うつがあったとしても、それはこれからの子育ての中で軽減してくることも予測される。

2. 母親の行っている育児を認めるように関わるケア

前述のように、産後1カ月時点で育児困難感や母親の不安・抑うつがあったとしても、その後軽減してくることが予測される。その一方で、産褥期の心身の状態はその後の母親の心身の健康に影響がある²²⁾。また、育児への自信のなさが、母親としての的確性に欠けるという認識につながる²³⁾。そのためにも、産褥入院中から産後早期の母親を支援することは肝要といえる。

1カ月児の母親は、Difficult Babyが育児困難感に影響を及ぼすことが少なかった。このことから、母親が子どもの反応をどのように読みとり解釈し、子どもの世話を

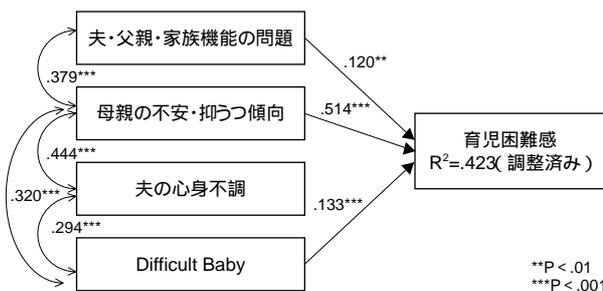


図7 育児困難感に及ぼす影響

表1 育児困難感尺度の因子分析(Promax回転後の因子パターン)

領域	質問項目	因子					下位尺度毎	尺度全体	
		1	2	3	4	5			
領域2 夫・父親・家族機能の問題	逆2-2 夫は精神的に私を支えてくれている	-0.839	-0.045	0.032	0.049	0.085			
	逆2-1 夫は私や子どものためにとてもよくしてくれる	-0.831	-0.001	0.054	0.066	-0.054			
	逆2-8 夫と気持ち通じ合っている	-0.813	-0.080	0.069	0.027	0.107			
	2-4 夫は子育ての大変さなど私の苦労をわかっていない	0.786	-0.024	0.141	-0.121	0.038			
	逆2-6 夫は育児のごとで相談にのってくれる	-0.775	0.045	-0.006	0.089	0.020			
	逆2-12 この人と結婚して幸せである	-0.736	-0.147	0.207	0.029	0.017			
	2-5 家庭内に関する事柄について夫には期待できない	0.698	0.013	0.096	-0.011	0.061			
	逆2-7 夫は子どもとよく遊び、面倒見がよい	-0.694	0.093	0.024	-0.029	-0.075			
	2-3 父親としての自覚が足りない	0.686	-0.009	0.065	-0.018	0.054			
	逆2-16 家族としてのまとまりを感じる	-0.673	-0.049	-0.010	0.006	0.021			
	2-19 妊娠中、夫や家族の理解が得られなくて大変だった	0.593	-0.090	0.118	0.075	-0.044	=.993		
	2-14 家族は子育ての大変さを理解してくれない	0.591	-0.082	0.179	0.007	0.003			
	逆2-15 家族は私の趣味や仕事を理解し、協力してくれる	-0.587	-0.035	-0.024	-0.010	0.048			
	2-18 家庭の中がしっくりいかない	0.579	0.190	-0.139	0.164	-0.048			
	2-20 夫は家事や育児に消極的である	0.570	-0.057	0.062	-0.021	0.018			
	2-9 夫は子どもに関心がない	0.554	-0.032	-0.073	0.111	0.056			
	2-10 夫は仕事や趣味だけに打ち込んでいる	0.457	-0.114	0.154	0.008	0.015			
2-17 子どもは父親になつていない	0.440	-0.084	-0.044	0.153	0.141				
2-13 夫と話し合う時間が少ない	0.423	0.109	0.146	-0.043	0.007				
逆2-21 夫は幸せな気分でごろしている	-0.360	-0.114	0.102	-0.300	-0.025				
2-11 夫は子どもをどのように扱ったらよいかわからない	0.294	-0.061	0.125	0.080	0.208				
領域3 抑うつ傾向・母親の不安	3-3 悲観的になりやすい	0.034	0.869	-0.037	-0.066	0.008			
	3-6 何ともしえず淋しい気持ちにおそわれることがある	0.016	0.828	-0.083	0.056	-0.057			
	3-5 精神的に不調である	0.129	0.787	-0.004	-0.006	-0.010			
	3-8 何事にも敏感に感じすぎてしまう	-0.167	0.761	-0.022	0.036	-0.007			
	3-4 とても心配性であれこれ気に病む	-0.105	0.760	0.066	-0.057	0.023	=.910		
	3-1 気が滅入る	0.043	0.650	0.149	-0.056	0.030	(領域3の12項目 =.911)		
	3-2 不安や恐怖感におそわれる	0.028	0.642	0.150	-0.040	0.082			
	3-7 いでたってもいられないほど落ち着かない	0.117	0.629	-0.117	0.116	-0.110			
	逆3-11 楽天的でよく考えない	-0.059	-0.580	-0.031	0.040	0.058			
	3-12 出産後、気持ちが沈み、おっくうで何もする気がしなかった	-0.049	0.461	0.023	0.092	0.058		=.946	
	領域1 育児困難感	1-B-2 子どもを虐待しているのではないかと思う	0.043	-0.228	0.710	0.084	-0.177		
		1-A-5 母親として不適格と感じる	0.080	0.063	0.635	-0.033	-0.016		
1-B-1 子どものことがわずらわしくてイライラする		0.055	-0.003	0.616	-0.036	0.025			
1-A-4 どのようにしつければよいかわからない		0.009	0.050	0.581	-0.038	0.054			
1-B-4 子どもに八つ当たりしては、反省して落ち込む		0.130	-0.118	0.564	-0.054	-0.221			
1-A-6 子育てに困難を感じる		-0.039	0.150	0.560	-0.063	0.156			
1-A-1 育児に自信が持てない		-0.072	0.137	0.556	0.077	0.100			
1-B-3 子どもがかわいいと思えないことがある		0.011	-0.002	0.540	0.039	-0.036	=.868		
1-A-2 子どものことでどうしたらよいかわからない		-0.080	0.095	0.510	0.090	0.079	(領域1の12項目 =.851)		
逆1-A-7 子どもをうまく育てている		-0.098	0.052	-0.506	-0.027	-0.041			
3-9 おこりっぽい		-0.025	0.208	0.472	0.108	-0.171			
3-10 イライラしている		0.024	0.199	0.440	0.125	-0.047			
1-A-8 育児についていろいろ心配なことがある		-0.090	0.195	0.397	-0.095	0.197			
逆1-A-3 子どものことは理解できている	0.039	-0.029	-0.267	-0.097	-0.012				
領域5 夫の心身不調	4-5 悲観的である	-0.009	-0.096	-0.006	0.858	-0.055			
	4-4 沈みがち	0.037	-0.115	0.017	0.836	-0.014			
	4-1 精神的に不調である	0.033	0.065	-0.034	0.708	0.022			
	4-2 イライラしている	0.069	0.016	0.074	0.690	-0.031			
	4-3 精神的にゆとりがない	0.099	0.103	-0.064	0.638	0.104	=.858		
	4-9 仕事に行きたがらなかつたり、やる気を失っている	0.009	0.077	-0.014	0.577	-0.013			
	4-8 仕事がつまみくない	0.054	-0.028	0.098	0.549	-0.046			
	4-6 眠れない	-0.198	0.068	0.085	0.422	0.071			
4-7 淋しそう	-0.049	0.020	0.110	0.402	-0.001				
領域4 Difficult Baby	5-4 抱っこや外に連れ出すなど眠るまでに手がかかる	0.077	-0.079	-0.091	0.028	0.802			
	逆5-6 おとなしく手がかからない	-0.158	0.138	0.126	0.053	-0.758			
	5-3 あまり眠らない	0.055	-0.017	-0.034	-0.003	0.730			
	5-1 よく泣いてなだめにくい	-0.025	-0.025	0.061	0.066	0.707			
	5-2 わけわからず泣く	-0.047	-0.014	0.116	0.070	0.678	=.870		
	5-5 一晩に何回も起こされる	-0.032	0.006	0.006	-0.011	0.626			
	5-8 夜泣きがひどい	-0.130	0.134	-0.119	0.082	0.602			
5-7 一日の生活リズムが一定しない	0.029	0.095	0.009	-0.178	0.552				
因子抽出法:主因子法		因子相関行列							
回転法:Kaiserの正規化を伴うプロマックス法		I	II	III	IV	V			
		-	0.3580	0.347	0.480	0.173			
			-	0.611	0.417	0.386			
				-	0.352	0.380			
					-	0.264			
						-			

しているのかを確認し保証する関わりが必要であると考えられる。産後の母親が求めるサポートは、母親自身が選択した育児技術や育児方法を認めて欲しいということである²⁴⁾。さらに、母親を孤立させない関わりと、母親がこれで大丈夫なのだという感じを持てるように、関わることの重要性が指摘されている²⁵⁾。

つまり、産褥期の母親に対しては、母親の話を傾聴し、母親が行っている育児に対して、受け止め、認めるケアが必須であると言える。そのためにも、ハイリスク群をスクリーニングするような情報収集のスタイルではなく、母親がこれまでの育児を振り返ることができる「退院してから、どうでしたか」というような問いかけから、母親との関わりを始めることが有効ではないかと考える。

今後は、育児困難感の実態ならびに、育児困難感に対する影響について産歴、年齢などの要因を加味した分析を行う必要がある。

結論

- ・1カ月児の母親は、育児困難感を感じる割合が高い。
- ・育児困難感には、母親の不安・抑うつ傾向が影響する割合が高い。
- ・Difficult Babyは、母親の育児困難感に影響するが、その程度は少ない。

本研究は平成15、16年度文部科学省科学研究費助成金基盤C(課題番号15592290主任研究者小林康江「1カ月児を育てている母親の子育て到達度を測定する尺度の開発」の一部である。

研究にご協力頂きました独立行政法人国立病院機構甲府病院、市立甲府病院の関係者の方々に感謝申し上げます。

文献

- 1) <http://www.mhlw.go.jp/wp/hakusyo/kousei/05/dl/2-1.pdf>厚生労働白書平成17年度, 227-235.
- 2) 牧野カツ子(1982) 乳幼児をもつ母親の生活と育児不安. 家庭教育研究所紀要, 3: 34-56.
- 3) 水上明子, 馬場直美, 植田明美, 他(1995) 産後の母親の不安と育児状況. 母性衛生, 3(1): 97-102.
- 4) 吉田弘道, 山中龍宏, 巷野悟郎, 他(1999) 育児不安スクリーニング尺度の作成に関する研究. 小児保健研究, 5(6): 697-704.
- 5) 川井尚, 庄司順一, 千賀恵美子, 他(1996) 育児不安に関する臨床的研究 - 育児不安の本態としての育児困難感について -. 日本総合愛育研究所紀要, 32: 29-47.
- 6) 恒次欽也, 庄司順一, 川井尚(1999) いわゆる育児不安に関する研究(1) - 「育児困難感」の規程要因に関する研究. 愛知教育大研究報告, 48: 123-129.
- 7) <http://www.hakusyo.mhlw.go.jp/wpdocs/hpax200301/>

- b0042.html 厚生労働白書 H15
- 8) Mercer, R.T., & Ferketich, S.L. (1995) Experienced and inexperienced mothers' maternal competence during infancy. *Research in nursing & health*, 18: 333-343.
 - 9) 池田浩子(2001) 育児負担感に関する研究. 育児負担感の時期別変化と母親の心理状態との関連. 母性衛生, 4(4): 607-614.
 - 10) 小林康江, 遠藤俊子(2002) 新生児訪問指導を受けた母親に関する記述的研究. 山梨県立看護大学紀要, 4: 41-52.
 - 11) 昆野裕香, 柳原真智子, 神原玲子, 他(2002) 退院後1週間以内の褥婦の不安. 母性衛生, 4(2): 348-356.
 - 12) 都筑千景, 金川克子(2002) 産後1カ月前後の母親に対する看護職による家庭訪問の効果. 日本公衆衛生雑誌, 4(11): 1142-1151.
 - 13) 日本子ども家庭総合研究所編著(2003) 子ども総研式育児支援質問紙の利用手引き. 母子保健事業団, 東京.
 - 14) 前掲書(11)
 - 15) Solis, M.L. (1991) The Spanish version parenting stress index: A psychometric study. *Journal clinical child psych*, 2(4): 372-378.
 - 16) 奈良間保美, 兼松百合子, 荒木暁子, 他(1999) 日本語版 Parenting Stress Index(PSI) の信頼性・妥当性の検討. 小児保健研究, 5(5): 610-616.
 - 17) 伊藤朋子, 田中純子, 藤川京子, 他(2003) 育児不安を抱く母親に対するスクリーニングの試み. 広島医学, 5(5): 320-326.
 - 18) 小原倫子(2005) 母親の情動共感性及び情緒応答性と育児困難感との関連. 発達心理学研究, 1(1): 92-102.
 - 19) 前掲書(3)
 - 20) 小林康江, 有井良江, 遠藤俊子, 他(2003) 母親の子育ての体験を構成する要素の質的研究. 山梨県立看護大学紀要, 5: 79-86.
 - 21) Chick, N., & Meleis, A.I. (1986) Transition: A Nursing Concern, In P.L.Chinn(Ed.) *Nursing research Methodology: Issues and Implementation*(p.238) New York, An Aspen Publication.
 - 22) 服部律子, 中嶋律子(2000) 産褥早期から産後13カ月の母親の疲労に関する研究(第2報) マタニティブルーと産後の抑うつ症状. 小児保健研究, 5(6): 669-673.
 - 23) 前掲書(13)
 - 24) 鶴山愛子, 久米美代子(2005) 産後1カ月の母親が必要としているソーシャル・サポートの検討. 日本ウーマンズヘルズ学会誌, 4: 19-31.
 - 25) 川崎裕美, 海原康孝, 小坂忍, 他(2004) 母親の育児不安と家族機能に対する感じ方との関連性の検討. 小児保健研究, 6(6): 667-673.